

目次

ノート

1

わらの心臓

103

あとがき

216

上演記録

219

ノ
ー
ト

機動隊員 女 男 T O N K J B A

●登場人物

1

Tが倒れている。N、O、B、Aがやってくる。

そういうわけだそうです。

なんでいまさら。

わかりません。

お元気でしたか？

誰に聞いてるんだ？

元気だよ。

お久しぶりです。

元気じゃないけど、元気だよ。

Jがやってくる。

呼んだのは、あんたか？

違います。(Tを指し)彼です。みなさん、事情はおわかりですね。

このままにしておこう。

そうはいきません。

どうして？

私たちの存在の意味がなくなる。

リアリティを感じられません。

私たちにリアリティがあるわけがないでしょう。

どなたか彼を起こしてください。

NがTを目覚めさせる。

……。

始めます。

ヘリコプターのプロペラ音が遠くから聞こえる。

N
いきなりここからやりますか。

ヘリコプターが近づいてくる。全員がその方向を見上げる。

J B O B N B J B J T J N J T J N A

Nさんはここで何か歌を歌ってました。
ノート。

(Tに) 思いだしましたか？

え。

もうすぐ世界が終わります。

ノート。これは救済です。世界の始まりです。

ですから救済のために終わらせるのです。さあ、T君乗ってください。

え。

君とB君、A君、N君は空中班。私とO君は地上班でした。

ノート。地上班にはHもいたはずだ。

ですからH君は無期懲役です。

納得いかない。

彼は最初に自首して捜査協力しましたからね。

同じ裁判官だっていうのに。

まだ言ってる。

事実と違うままやろうって言うのか。

仕方がないでしょう。(Bに) やめますか？

B 意味がわからん。

J この過去のことですか？

B この集まりの意味だよ。

N 私もわかりません。

J このままT君を置き去りにしていいのか、ということですよ。

B ナカマ思いなんだな。

J やめるといふならご自由に。

B やるよ。(Tに)早く乗れよ。(戸惑うTに)乗れって言ってるんだよ！

T わかりません。

J 乗ればわかりますよ。さあ、人類を救済するんです、終わりの始まりに向かって。

A ノート。

J 何がノートなんですか？

B 乗せちまえ。

O ノートが出てるぞ。

B うるせい。

BとNがTの腕を取る。

A
(強く) ノート、ノート。

AがTを掴んでいるふたりの手を振り払う。

J A
本人が思いださなければ、フェアじゃありませんよ。

思いださせるためにやってるんです。

T君は乗ってはいなかった。

N A
ノート。乗ったよ。

A B
ノート。あなたは見ていませんでした。

B A
ノート。ガスを撒く時、声が出たぞ。

N A
ノート。

B A
ノート。

J O
ノート。

B A
こりゃだめだよ。

J O
だめですかね。では仕切り直しましょう。

Tと女がいる。

女 T 女
どうしたの？

(と聞かれた意味がわからず) どうしたの？

女 T 女
話してよ。

T 女
何をです？

T 女
何があつたの？

T 女
何があつたんだろう？

T 女
わからないの？

T 女
何がわからないのか、わからない。

T 女
こっちを見て。

T 女
……。

T 女
見えてる？

T 女
はい。

T 女
私はわかる？

O T O T
Oさんでしたよね。自分のせいでいろいろご迷惑をおかけします。
ほら、ナカスギ君が燃えてるよ。

O T
これってまずくないですか。

O T
その通り。あの時も君はそう言った。おれは答えた。まずいよ。次におれが言ったことは覚えてるか？

O T
覚えていません。

O T
教団やめようか。

O T
でもこれってもう共犯になつたつてことなんじゃないですか。

O T
そう。あの時も君は同じことを言った。

O T
それで自分たちはどうしたんですか？

O T
逃げ出した。あの頃の教団はまだ緩くて簡単に抜け出せた。しつこく追ってくることもなかったし、居所を捜しだして強引に戻すなんてこともなかった。おれたちは自発的に戻った。なん
でだと思う？

O T
洗脳が解けなかった。

O T
そうとも言える。だが、おれはあの時はもうあの人の教義には懐疑的でね。そんなおれがなぜ戻ろうと決めたのか。外に出ても居場所がないつてことに改めて気づいたのさ。どこへ行つても素っ裸で見知らぬ街を歩いているような気分さ。何も持つてないし、誰も知らない。もとも

と貧しい家に生まれて、あちこちたらい回しされて育ったおれだ。学歴もなし居場所もなしで足を踏み入れたんだって気がつくよ、やたら研究所がなつかしくなってるね。そうなんだ、あそこにいればナカマがいるんだって。それで戻った。「おかえり」って言われてひとりっきりの自分ってやつを再認識したね。「おかえり」なんて初めて言われた。二日後に君も戻ってきた。「自分のような人間が生きていける場所がない。」君はそう言った。一度逃げたぼくたちには軽い地獄が待っていた。

O T
その後待ち構えている地獄に比べれば、という意味でね。

N
Nが来る。

N
君たちは圧倒的に修行が足りないのです。瞑想部屋で自己を見つめてください。自らの弱さと向き合い、超克していただきたい。

O
コンテナに閉じ込められるんだ。畳二畳ぐらいの、おまるがあるだけの真つ暗闇。ひとりつきりで一週間。一日一食の教団食で生き抜かなければならない。

T
よく平気でしたね。

O
おれは平気じゃなかったよ。
さ、入れ。

わらの心臓

●登場人物

影・男（国間境一郎）・X

女（安藤ミサ）

労務者（ミラレパ）

諜報委員（小野木）

学生

老女（国間京子）

介護職員

機長

浮浪者

パンク

国間の妻・アンヌ

青い信者（ガネーシャ大師）

白い信者（大室医師）

朱色の信者（マリーリーチー）

緑の信者（チティパティ大師）

灰色の信者

刑事

刑事たち

機動隊員

大師1

大師2

信者1

信者2

信者3

信者4

女たち

若い浮浪者

眼帯の浮浪者

片足の浮浪者

ボディガード

ACT 1

1

過去のイメージ。暗がりでは火花が散っている。鉄を切断する音。客席に背を向けてひとりの男が立っている。男のまわりには数名の女たちが座って男を見上げている。

影

これは終わりではない。最終戦争に終わりはないだろう。私は永遠だ。私は勝利する。

切断音が止まる。カナリアが入れられた鳥籠を手にし、防護マスクを被った機動隊員が現れる。

2

郊外の廃墟は「火山のふもと」と呼ばれている。女の酒場はそこに立てられている。五、六人も客が入ればいっぱいの小さな飲み屋だ。春の夜、小雨が降っている。女の前に旅客機のパイロットの服装をした男がいる。女とその男のあいだにはウイスキーの入ったグラスが置かれている。

機長 耐えられないんだ。

女 みんなそうよ。

機長 私は特別な人間だ。

女 濃いめがよかったんだっけ。うすくしちゃった。

機長 君はそういう人間だ。

女 そういつてどういう？

機長 君は私という人間を理解できる。

女 なんでそう思うの？

機長 そういう人間だからだ。

女 いかれてると言いたいよね。

機長 いかれてるのは世間のほうだ。今週はコートジボアールまで飛んだ。

女 今度連れてってよ。

機長 考えられないな、君をあんな糞溜まりに置いておくなんて。

女 肥溜めってこと？

機長 旅客機にはね三百人が乗ってるんだ。その三百人がだよ、べちゃべちゃくっちゃべって唾や二酸化炭素を吐き出して、涎を垂らして食い物を詰め込んで胃液を分泌させて大便やら小便やらをのべつまくなしに排泄してるんだ。三百人の食い物と糞とシヨンペンを輸送してるんだ。い

やそれだけじゃない、中には射精するやつもいるだろう。

夢を見てたのね。

機長 女

私がか？

射精した人のほう。

機長 女

違う。ズボンを降ろしてたんだ。

あらまあ！

機長 女

だから女のほうはそれに応えるだろうし、汗やら生理の血とか、そんなもんが詰められた容器を私たちは運搬してんだよ。恐ろしい。耐えられない。君は耐えられるのかね。

女

飛行機乗るの好きよ。

機長

私には耐えられない。

女

じゃあ辞めれば。

機長

ああ。辞表の原稿はもう上がってるんだ。辞めたい心を詩に書いてみた。今持ってるんだが、聞きたいかね。

女

遠慮する。

機長

帰るよ。

女

また来てね。

機長は放射能被爆予防の防護服を着て防護マスクを被った男と入れ違いになる。

機長

(男に) ひどい炎症だな。いい皮膚科を教えてやる。ただし今度だ。いいな今度だからな。

男は曖昧なままうなずく。マスクのせいで顔は見えない。

女 (男に) アトピーなの、今の人。

男 ……です。(防護マスクのせいでよく聞き取れない)

女 何が飲みたいの？

男 ……です。

女 聞こえない。

男 (マスクを取り) 国間です。

女 どうして……

男 突然伺ってしまって。手紙の返事も書かないで失礼しました。

女 もう忘れてた。

男 お話を伺いたくて。

女 なんで？

男 おかしいんです。

女 おかしいわ。

男 やはり、おかしいですか。

女 格好のこと。まだ信じてるんだ、この地区が放射能に汚染されてるって。あたしは生きてるの
に。

男 あなたはどなたですか？

女 こういう人です。

男 こういう人とは？

女 どう見える？

男 変な人です。

女 あらそう。

男 今失礼なこと言いましたよね？

女 気にしないから。雨はあがってるの？

男 いいえ。まだしとしとと。霧状のやつが、体にへばりついてきて。

女 放射能入りの雨と言いたいのね。

男 まさか。

女 じゃあなんでその格好で来るの？

男 世間とのつきあいというやつです。

女 何から始める？

男 酒はあまり飲まないんです。

女 話のことよ。

男 あなたが生まれたのは？

女 ここいら。

男 御両親は？

女 ふたりとも顔も知らない。あなたのほうは？

男 父は私が生まれる前に亡くなりました。

女 知ってるの？

男 母から聞いたんです。クモ膜下だったそうです。

女 信じてるの？

男 信じるということがどういふことなのかわからなくなってしまうって。

浮浪者が入ってくる。

浮浪者 桜が散っちゃったな。

女 散っちゃった？

浮浪者 次はおれだな。順繰りってやつだ。

女 来年また咲くじゃない。

浮浪者 そうか。おれも一度死んでまた生き返るんだ。

女は浮浪者に紙袋を渡す。

女 梅干しとひじきとおかか。三十個あるからね。ひとりで抱えてちゃだめよ。

浮浪者 (男に親しげに) なんだよ、その格好は。

男 やはり変ですか。

浮浪者 変だよ。どういふつもりなんだよ。

男 新しいデザインのレインコートだと思ってくれば。

浮浪者 みんな待ってるからな。

男 はあ？

浮浪者 ここで食べるか？

男 いらないます。

浮浪者 じゃあ、食べちゃうよ。後で文句言っても知らないよ。

浮浪者は出ていく。

男 教団の方ですか？

女 今の人？

青い信者

おはようございます。

男

変なものを嗅がされて意識を失ったよ。早速本性を現したな。世話になったね。

青い信者

行かないでください。

男

拉致監禁かね。

青い信者

手荒な真似はさせないでください。

男は信者たちの様子の異変に気がついたように椅子に座る。

男

食事をもらおう。

学生が出ていく。

男

私が出ているいろいろなことをしゃべりまくるのを恐れているのかね。心配ない。私は君た

ちの敵ではない。

青い信者

味方でもない？

男

そんな義理がどこにある？ 私は私の人生を送ってきたんだ。

女

もうひとりのあなたに会ったわ。

男

いるんだな。殺人犯が。

青い信者

何と言いました？

男

やつは人を殺してるんだ。そのせいで私は一度逮捕された。遅かれ早かれ捜査の手が入るんじゃないか。

青い信者と朱色の信者は顔を見合わせて走り去る。

男

顔色変えやがった。

学生が食事を持ってくる。

男

(皿を見て)なんだ、これ？

学生

修行食です。

男

(口にするが吐き出し)だめだ、食えない。

女

あんたやつぱりここにいたほうがいい。

男

なぜ？

女

あんたが犯人じゃないって証拠がないじゃない。

男

失礼だな。

女

そっくりなんだから。あんたそのものがもうひとりいるんだから。

川村 毅 (かわむら・たけし)

劇作家、演出家、ティーファクトリー主宰。

1959年東京に生まれ横浜に育つ。

1980年明治大学政治経済学部在学中に第三エロチカを旗揚げ。86年『新宿八大伝 第一巻』にて岸田國士戯曲賞を受賞。

2010年30周年の機に『新宿八大伝 第五巻』完結篇を発表、全巻を収めた〔完本〕を出版し、第三エロチカを解散。

以降3年間、新作演出による舞台創りを控え、P.P. パゾリーニ戯曲集全6作品を構成・演出、日本初演する連作を完了。

2014年リスタートと位置づけた新作演出舞台の創造を吉祥寺シアターと共に開始。2014年『生きると生きないのあいだ』15年『ドラマ・ドクター』16年『愛情の内乱』、この三作品を収めた「川村毅戯曲集2014-2016」を論創社より刊行。

〈自身の原点を再考する〉新作として2017年『エフェメラル・エレメンツ』(「エフェメラル・エレメンツ／ニッポン・ウォーズ」論創社刊)、2018年『レディ・オルガの人生』、2019年『ノート』が続く。

2013年『4』にて鶴屋南北戯曲賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2002年に創立したプロデュースカンパニー、ティーファクトリーを活動拠点としている。戯曲集、小説ほか著書多数。<http://www.tfactory.jp/>

●本戯曲の使用・上演を希望される場合は下記へご連絡ください

株式会社ティーファクトリー

東京都新宿区西新宿 3-5-12-405

<http://www.tfactory.jp/> info@tfactory.jp

ノート／わらの心臓

2019年 10月24日 初版第1刷印刷

2019年 10月30日 初版第1刷発行

著者 川村 毅

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町 2-23 北井ビル

電話 03 (3264) 5254 振替口座 00160-1-155266

装丁 奥定泰之

組版 フレックスアート

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1887-0 ©2019 Takeshi Kawamura, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします